

文化の力で大阪に活力を。

OSAKA*文化力

No.107
2009 WINTER・冬



リレーインタビュー

私のSWEET水都

シテファン・ビーターマン ドイツ総領事館・副総領事

Front Opinion

アート×サイエンスー大阪でひらく夢創造

宮原秀夫氏×ヤノヘケンシ氏×堀井良殷大阪21世紀協会理事長

大阪21世紀協会トピックス

2010.1.28「関西・大阪文化力会議」開催他

企業最前線

太陽工業株式会社

能村光太郎社長

大阪文化考

「大阪文化祭賞」への期待と課題

上海万博現地ルポ

開幕まで半年に迫った「上海万博」

楽屋よもやま話

能は丁々発止の熱いライブ

能楽師 山本章弘さん

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

財団法人 大阪21世紀協会

シュテファン・ビーダーマン

ドイツ連邦共和国総領事館・副総領事

自意識の強い大阪人

私は日本は3度目です。最初は学生の頃で、2度目は大学を卒業後、ジャーナリストとして東京のテレビ局で1年半仕事をし、日本を紹介する本も書きました。そして今年7月から総領事館に勤務しています。こうした経験から私は、大阪の人は自分が大阪人であるという意識を強く持っていると感じます。首都は東京にあっても、自分たちの言葉やライフスタイルを持ち、大阪人であることに誇りをもって生活している。ユーモアがあっておしゃべりなところは、ドイツ南部の人にも似ています。

魚の種類に無頓着なドイツ人

ドイツには、北部にわずかな海岸線があるだけで、南部に海はありません。だから南部出身の私は、大阪は港町だという印象がとても強い。多くの外国船が出入りする、世界に開かれた国際貿易都市だと思います。また、海が身近でないドイツの地方では、レストランのメニューの魚料理欄には「魚」と書いてあるだけ。何の魚であるかという説明はありませんし、客も訊ねようとしません。日本では、マグロだけでも、中トロやピントロなどの区別がありますね。島国ならではの海産物の豊かさを感じます。

水都大阪2009にドイツ人も参加

ドイツと日本の文化施策の違いといえば、ドイツでは市民が劇場に足を運びやすいように、政府が文化施設などに多くの助成金を出していることです。おかげでベルリンのオペラハウスでは、学生の入場料はわずか500円。そうして多くの人が文化的活動に参加するチャンスをつくっているのです。

文化への市民参加といえば、今夏の水都大阪2009では、多くの市民とアーティストが一緒になって楽しみましたね。ドイツ人のアーティストも大阪のアーティストと一緒に、水を使った映像表現を行いました。近年はドイツ文化センターで映画や音楽、アート展覧会など日独の多彩な文化交流をプロデュースしており、私たちも一緒に活動することもあります。

大阪にはハンブルクやシカゴ、サンパウロなど、8つの姉妹都市があります。そうした関係を活かして、これからは若い人たちの世界的な交流をもっと活発にしていきたいと思います。



シュテファン・ビーダーマン (Stefan Biedermann) 氏

1960年、独バイエルン州フランケン地方ホーフ生まれ。ベルリン自由大学と東京大学にて、ドイツ史、日本学を専攻。1985～86年に日本に留学。1996～2000年在日ドイツ大使館勤務。現在京都に在住。趣味は音楽。

アート×サイエンス

大阪でひらく 夢創造

ゲスト 宮原秀夫氏 (独立行政法人情報通信研究機構理事長)

ヤノベケンジ氏 (大型機械彫刻作家、京都造形芸術大学教授)

聞き手 堀井良殷 (大阪21世紀協会理事長)

アートを通

して人と水辺をつなぐイベント

『水都大阪2009』が、52日間の会期を終え10月12日に閉幕した。大阪21世紀協会が、“水の都”をコンセプトに大阪の魅力を再生・発信しようと呼びかけて7年。この間、中之島を中心として栈橋や親水空間が次々整備され、水質改善も進むうち市民の意識が再び水辺に向かいはじめている。そうしたなかでの『水都大阪2009』は、大阪人にアートとまちづくりの夢ある可能性を強く印象づけるものとなった。そして今、その夢をさらに大きく育む、アートとサイエンスのコラボレーションが始まろうとしている。





大阪人とアート感覚

堀井 「アートと市民参加」という水都大阪2009のコンセプトに対して、当初、「大阪人の気性や土地柄とアートは結びつかないだろう」という意見が少なくありませんでした。露骨に「アートなんか、あかんで」と言われたこともあります。それでずいぶん悩んだのですが、実際にイベントが始まると、多くの市民の皆さんに参加していただき、とても喜んでもらえました。まちにアートがしみ出していく楽しさを実感しましたね。ヤノベさんの作品も大変注目を集めました。ヤノベさんは、水都大阪2009にどのような思いを持たれましたか。

ヤノベ 芸術というと、美術館やギャラリーで鑑賞する何やら難しいものという印象がありますね。しかし、水都大阪2009はそんな先入観を変えました。多くの人とコミュニケーションをとりながらアートを楽しむことで、アートの魅力を伝え、理解していただく良い機会になったと思っています。

堀井 今日は特別にラッキー・ドラゴン号を呼んでいただきました。龍といえば水の守り神。私もこれを見たときは龍神さまが現れたという思いがして、びっくりすると同時にとてもうれしく思いました。

ヤノベ 来場者に夢や驚きを感じてもらえる作品が必要だと思ったんですね。そこ

で、あたかも町のなかに怪獣が出現してきたかのような、火や水を吹く伝説の龍をイメージして作ったんです。

堀井 ラッキー・ドラゴン号には、どんなメッセージが託されていますか。

ヤノベ 作品名は、かつてアメリカの水爆実験(1954年)で被爆した遠洋マグロ漁船『第五福龍丸』に由来します。私はこれに、核兵器廃絶だけでなく、戦争や環境破壊などに対する警鐘の思いを込めています。一見面白い作品ですが、遊園地にあるエンターテイメント的な装置ではありません。一方、子どもたちに向けては、テレビや映画で見る世界を本当に作っている人たちがいることを知らせたい。これを見て、「自分が大人になったら、こんな夢のあるものを作っていいんだ。作りたい」と思ってもらいたいですね。大阪市役所に展示した巨大ロボット『ジャイアント・トラヤン』も同様に、子どもたちの未来に向けて、イマジネーションの可能性を広げる種まきだと思っています。

堀井 なるほど。でも、イベントが終われば、どこへ行ってしまうのでしょうか。

ヤノベ イベント終了後は廃棄する契約なのですが、多くの人の協力を得て作り、多くの市民の心をつかんだ作品ですから、ご要望次第では、伝説の龍が再びどこか

に現れる可能性はあると思いますよ。

堀井 それは大いに期待しています。

見られないものを見る技術

堀井 水都大阪2009をスタートとして、今後も大阪のまち磨きを続けていかなければならないと思っています。そのためには、アート作品を美術館のガラスケースに収めるだけでなく、まちのなかで市民と触れ合うことも必要でしょう。それによってまち全体が美術館やミュージアムとなり、劇的な感動が生まれるのだと思います。現在開発中の梅田北ヤードでも、感性をみがき楽しむ空間づくりが求められると思います。宮原さんは、ご専門の通信技術やコンピュータ技術とアートを融合させて新しい拠点をつくらうと、北ヤード開発で主導的役割を果たしておられますが、少し詳しくお話しいただけますか。

宮原 北ヤードの開発にあたっては、技術者と芸術家がコラボレートする場所としての活用を考えています。それによって、一般の人にサイエンスへの理解をより深めてもらうことができるんですね。その代表例が、見える化(可視化技術)です。例えば台風が発生するメカニズムや、地球が温暖化していくようすなどを、いくら数値やグラフで説明しても一般市民には理解されにくい。しかし、ビジュアルで表現すれば、実感として分かりやすくなります。だからアート感覚が不可欠なんですね。私たちは、そうして作った映像を北ヤードでも見てもらいたいと思っています。

堀井 サイエンスに対する理解のほかに、どのような新しい可能性が生み出されるのでしょうか。



トラやんの大冒険(ヤノベケンジ氏作/水都大阪2009より)



トラやんの大冒険<宇宙船>(同左)

宮原 エンターテインメント的な分野でも、これまでにない楽しく面白いものが開発されますよ。現在、私たちは、3D(立体)映像を、専用めがねをかけずに見ることができる技術を開発中です。これまでのような3D専用のめがねをかける煩わしさが解消されるんですね。しかも映像は、200インチの巨大スクリーンで見ることができます。堀井 それは面白そうですね。200インチの大スクリーンというのもすごい。

宮原 それだけではありません。この立体映像は、見る位置によって見え方が異なります。正面から見ると正面の、横から見ると横の立体映像が見えるんですよ。200インチだと一度に100人ぐらいで見られますが、同じ映像でも人それぞれで見え方が違うんです。

堀井 自動車の映像だと、正面から見ればヘッドライトが見え、横から見るとドアが見えるんですか。

宮原 その通り。スーパーカーが走っている映像なら、素晴らしい臨場感で楽しめるでしょう。

堀井 アナログ時代のことを思うと、想像を絶するような技術ですね。

ヤノベ いったいどんな仕組みでそんなことができるんですか。

宮原 じつはスクリーンに仕掛けがあるんです。通常はプロジェクターが発する光の全てをスクリーンが映し出しますが、私たちが開発したものは、スクリーンに特殊なスリットが入れてあり、見ている人の視野角に入る光だけが映るようにしています。この映像は、スクリーンの背後から何十台というプロジェクターによって映し出しています。こうして作った映像を、北ヤ-

ドの人たちにも見てもらいます。

堀井 実用化のメドはいかがですか。

宮原 すでに70インチサイズは完成しています。あとはこれを拡張していけばいいのですが、これはそんなに難しい技術ではありません。それより問題は、映像の内容です。3D映像を作る技術はあっても、それを見て楽しいと思える作品、つまりコンテンツを作るには、アーティストやクリエイターの人たちの力によるところが大きい。エンジニアだけでは限界がありますからね。そうして科学技術とアートの融合によって作られた新しい世界を、大阪のまちなかで見てもらいたいと思っています。

ストーリー性のある展開を ストーリー性のある展開を

堀井 ヤノベさんは科学技術の進歩がアート作品にどのような影響を与えようかと思われませんか。

ヤノベ 影響はとても大きいですね。『ラッキー・ドラゴン号』や『ジャイアントトラヤン』は、作品を動かすために町工場や海運会社の方々など、さまざまな分野の人たちの協力を得てつくることができました。それはアナログ的な技術ですが、宮原さんたちが研究開発されているデジタル技術というのは、アーティストとしてのイメージネーションを大きく膨らませてくれますね。どきどきします。北ヤードの立体ビジョンのなかに、ぜひ伝説の龍を登場させたい。

宮原 立体映像は、高速通信技術を使えば遠方からでも入手できます。例えばラッキー・ドラゴン号が大阪のどこかの川を走っているとき、そのようすを北ヤードでリアルタイムで見られます。

ヤノベ 「只今、巨大な物体が接近中で

す!』って、子どもの頃に見た、怪獣映画のような実況中継が実現する。

宮原 そうそう。そうすると皆さん本物を見たくなるでしょ。アートへの関心が一層喚起されるわけです。

堀井 立体映像が手軽に作れるようになれば、スクリーン上のバーチャルな彫刻作品もできるかもしれませんね。

宮原 私たちは、その研究開発にも取り組んでいます。これは専用の眼鏡のようなものが必要ですが、それをつけると実物がなくても実際にそこにあるように見えます。平城遷都1300年祭(2010年)で使う予定なのですが、正倉院の宝物を撮影してこれで見ると、実際に目の前にあるように見えます。特殊なペンで映像をなぞると、その感触も得られるんです。これが楽器だと、実際に弾く感触や音まで体験できるんですよ。

堀井 実際には何もないんですよ。

宮原 そうです。傍から見れば、眼鏡をかけてペンを持った人が何もない空間をただかき回しているようにしか見えません。でも本人は、ちゃんと太鼓や弦楽器が見えていて、それを叩いたりつま弾いたりする感覚があるんです。



大阪駅北地区開発・完成イメージ



ヤノベケンジ氏

ヤノベ 宮原さんたちのご研究は、まさに普通では見られない、触れないものを見たり触れたりしたいという欲望がもとになっているんですね。私が大阪に龍を出現させたいと思ったのも、見てみたい、触れてみたいという欲望やイメージーションが源です。龍やロボットはリアルな体験ですが、リアルなものがあるから、一方で、宮原さんたちが開発されたバーチャルな体験もより深く理解できるように思います。

宮原 逆に、バーチャルな体験をしたから、本物を見てみたいという気持ちにもなるでしょう。だからこそ、そこに行ってみようという気になる。そんな気持ちにさせる技術開発であり、大阪のまちにしたいですね。

堀井 中之島や北ヤードといったひとつの場所でアートムーブメントを完結させるのではなく、先ほどの高速通信技術を使って立体映像をやりとりするお話のように、まちとまちをつなぎ、大阪全体を巻き込んで、例えばドラゴンが大活躍するようなストーリー性のある展開にすれば、もっ

と面白いものができるでしょうね。海外と結ぶと夢がひろがります。市民のアートやまちづくりへの参加意識も一層高まると思います。

夢が持てるまち

堀井 ラッキー・ドラゴン号に乗っている「トラヤン」は、どういう発想からきているのですか。

ヤノベ 「トラヤン」というチョビ髭のキャラクターは、私の父が定年後に趣味ではじめた腹話術の人形です。私は大阪の生まれ育ちですから、大阪的なものからインスピレーションを多く得ています。だから作品の中にも大阪的なユーモアを取り入れています。

堀井 ロボットのな作風はどうですか。

ヤノベ 巨大なロボットを操縦してみたいとか、まちに怪獣が出現したらどうだろうかという、子どもの頃に描いていた夢の実現ですね。単純な発想ですが、これは子どもに共通してある夢だと思います。そうしたものを具現化することで、多くの人の感動を得たり、人々の創造力を刺激するきっかけになればと思っています。

堀井 これを作るのに、ずいぶん多くの人たちが参加されたそうですね。

ヤノベ 大阪工業大学や京都造形芸



宮原秀夫氏

術大学をはじめ、一本松海運の社長さんには、自ら図面をひいていただいて機構部分をつくりました。ラッキー・ドラゴン号には、人々に共通する夢を実現するというテーマがあったんです。

宮原 若者や子どもが夢を持てるまちにしたいですね。先ほど「大阪人とアートは結びつかない」という意見があったと言われましたが、私も堀井さんと同感で、そうは思いません。そんなことばかり言っているのは、いつまでたっても大阪は元気にならないでしょう。以前、堂島リバーフォーラムで立体映像をお披露目したとき、そのコンテンツ制作を募集したら、若手クリエイターの人たちからとてもたくさんの応募がありました。みんなが楽しくなるように、みんなできりあげていく。北ヤードでは、そういう気運を育てたいと思っています。

堀井 なるほど。水都大阪2009によって、大阪の人はアートにも関心を持ってちゃんと応えてくれるということが実証されました。



大川を航行するラッキー・ドラゴン号(水都大阪2009)



大阪役所に展示された全長7.5mのジャイアントトラヤン(ヤノベケンジ氏作/水都大阪2009より)



聞き手 堀井 良毅
(大阪21世紀協会理事長)

ヤノベ 私は、大阪ならではのアートを発信していきたいですね。例えばフランスのナントというまちでは、巨大な象を作ってまちをパレードするロワイヤル・ドゥ・リュクスという大道芸人のグループがあります。彼らはロンドンやベルリンなど、世界各地で公演をするほどの人気なのですが、その工房やミュージアムがナントで公開されているんです。そうしてナントは、観光誘致に成功しているんですね。文化によって都市を再生させる、ナントならではの手法といえるでしょう。大阪でも大阪ならではのアートやテクノロジーによって、大阪でしか見られないようなものを作れば、いろんなところから人が集まってくるでしょう。

宮原 そのためには、まちができてからではなく、まちができるまでに技術者とアーティストのコラボレーションをスタートさせな

くてはならないと思います。

堀井 科学技術と芸術が融合することで、研究所や美術館という枠ではなく、まちを媒介として新たな人のつながりも生まれますね。

宮原 そうです。かつて、ウフィッツイ美術館(イタリア)の絵画修復技師と私たちの技術者が一緒になって古い絵画を修復したことがあります。そのとき絵の断層写真を撮るなどさまざまな解析を行ったところ、絵具に覆われて見えなかった紋様が見えてきました。まさに西洋絵画技術の

歴史を変えてしまうような発見だったんですね。こうした国境を越えた技術と芸術のコラボレーションは、すでにスタートしているんです。

堀井 想像力を刺激するまちであることが、新産業発展のためにも重要な基盤であると思います。お二人のお話を伺っていて、本当に夢が実現する期待がふくらんできました。どうもありがとうございました。

(2009年10月16日/堂島川・福島港<福島区ほたるまち>にて)



トラヤン

宮原秀夫

1943年大阪生まれ。73年大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士課程修了。03~07年まで大阪大学総長。2007年より現職。97年通商産業大臣賞、97年IEEE(米国電気電子学会)フェロー、02年第6回エリクソン・テレコミュニケーション・アワード、03年総務大臣表彰など受賞多数。専門は情報ネットワーク学。

ヤノベケンジ

1965年大阪生まれ。1991年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。97年、作品である放射線防護服「アトム・スーツ」を着用し、チェルノブイリを訪問。無人の幼稚園や遊園地などに佇む自身の姿を発表して話題を呼ぶ。サバイバルや再生をテーマにした大型機械彫刻作品の展覧会を各地で開催。

社学連携事業をスタートいたしました! 大阪大学・大阪市・大阪21世紀協会が連携コラボレーション(協働)でつくる 学びのムーブメント“21世紀の懐徳堂”プロジェクト始動!



左から、平松邦夫大阪市長、
鷺田清一大阪大学総長、
堀井良段大阪21世紀協会理事長
江 弘毅株式会社140B取締役編集責任者
(11月5日・記者会見にて)

21世紀の懐徳堂プロジェクトが始動します。コラボレーション(協働)による学びの場づくりを目指して、大阪大学・大阪市・財団法人大阪21世紀協会が先ほど連携。11月5日に記者発表をおこないました。

江戸時代の大阪の有力町人たちが、自ら学ぶために立てた学問所「懐徳堂」。この精神を21世紀に引き継ぎ、知的レベルを発展させ、市民自らの手で学びの場を立ち上げ、運営してゆく仕組みづくりを目指して、「21世紀の懐徳堂プロジェクト」が立ち上がりました。「大阪大学21世紀懐徳堂」、「アートアッセンブリー」、江 弘毅氏が主宰する「ナカノシマ大学」の動きを結集し、一つの大きなムーブメントを興そうとするものです。

街なかに大人の知的な好奇心と学習欲求を満たす場をつくることは、街の活性化にとって大事なことで、そして「自分たちが暮らす地域の発展のために、自ら学びの場を作り、自ら学び、自らの地域に還元する」という懐徳堂の精神をふたたびこの地に甦らせることで、市民の自発性を涵養し、ひいては「文化立都」としての大阪の再興につなげていくことを、その大きな目的としています。

記者会見では「中之島を“知の蔵屋敷”にしよう(平松市長)」「市民が都市を動かしているという気概を甦らせたい(阪大・鷺田総長)」「ゆくゆくは全大阪的な運動にしたい(大阪21世紀協会・堀井理事長)」と、三者それぞれの立場で抱負やビジョンを語りました。

関西社会人大学院連合—大阪21世紀協会 包括協定締結

特定非営利活動法人関西社会人大学院連合(理事長 杉原左右一氏)と財団法人大阪21世紀協会は、地域社会の発展に資することを目的に、相互の活動の充実を図り、連携協力事業を行っていくことに合意し、今夏、包括協定を結びました。大阪駅前第二ビル(大阪市北区)内にある人材育成中核拠点「キャンパスポート大阪」を中心に、専門セミナーの提供をはじめ、教育・研究、地域社会貢献等の連携協力を進めていく予定です。大学の連携組織と公益法人との連携は、社会人の人材養成の機会をより充実させることをめざすものです。

緊急告知!! 2010. 1. 28(木)「関西・大阪文化力会議」を開催します!



基調講演を行う予定の社団法人企業メセナ協議会・加藤恒夫専務理事

多士彩才・続々登場!



今中博之さん
アーティストと社会の橋渡し役(アトリエインカーブ)



中西美穂さん
知的障がい者の創作活動と共に(NPO大阪アーツアボリア)

大阪21世紀協会は「関西・大阪の文化力向上」を最大のミッションと考え活動しており、その中核事業となるべく、「関西・大阪文化力会議」を来年2010年1月28日(木曜日)、大阪・中之島の大阪国際会議場(グランキューブ大阪)にて開催することとなりました。

関西で活躍している文化人、学界、経済界などのオピニオンリーダーやまちづくり活動をしている市民やメセナ関係者にご参加いただき文化・芸術各分野における課題の抽出と、情報の交流を行い、関西・大阪の文化力向上につなげていきたいと考えております。

本会議では、文化やメセナ活動の第一人者をお招きしての基調講演、さらには関西・大阪における主要なブランド資源を抽出して4部門にわかれて分科会での講演、報告、プレゼンテーション、パネルディスカッションなどを行い、交流と懇親のためのパーティーも予定しております。

また、パーティーでは「多士彩才」出版披露、関西・大阪ブランド資源映像DVDの在阪総領事館、留学生への贈呈、さらには当協会が主催者に加わっている「大阪文化祭賞」の入賞者を招いての記念公演(演奏会)などを予定しており、いわば今年度の当協会の総決算事業として位置づけております。

当日の皆様方のご参加をお待ち致しております。

大阪21世紀協会 第23回賛助会員講演会・交流会 10月28日(at天王寺都ホテル)実施

講演・近畿日本鉄道株式会社取締役副社長 岡本直之氏



近鉄阿部野橋
ターミナルビル整備計画



岡本直之氏



茶谷幸治氏

再開発で大きく飛躍する阿倍野・天王寺地区のまちづくりの中核となる近鉄阿部野橋ターミナルビル整備計画。先ほど開催いたしました賛助会員講演会では、このまちづくり計画の概要を中心に、近畿日本鉄道株式会社取締役副社長・岡本直之氏にあべのエリアの魅力的なまちづくりをテーマに講演いただきました。

文化と歴史のまち上町台地に、地下5階地上60階高さ約300メートルの日本一の高層ビルを平成26年完成予定で建設する計画内容や、南大阪エリアの新しい文化・観光拠点となるプロジェクトに言及していただきました。

また、長崎さるく博'06でコーディネイトプロデューサーを務められた茶谷幸治氏(大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会チーフプロデューサー)から上町台地のまち歩きの魅力についてもお話していただき、約200名の参加者で会場は熱気につつまれました。

交流サロン「21cafe in アベノ」 12月1日(at 天王寺都ホテル)開催! 「都市文化におけるミュージアムの役割」

ゲスト 蓑 豊氏(サザビーズ北米本社副会長・金沢21世紀美術館特任館長・大阪市立美術館名誉館長)



大阪21世紀協会では、さまざまな活動に携わる人たちの情報交換のためのプラットフォームとして、交流サロン「21cafe」を継続開催中です。18回目のサロンは、世界各都市のミュージアムに精通した蓑氏に「都市文化におけるミュージアムの役割」をテーマにお話していただきます。まちづくりについて示唆に富んだアドバイスや大阪の活性化についての提言です。

※蓑 豊氏：美術史研究者として慶応義塾大学からハーバード大学に進んだ後、米国各地の美術館の東洋部長として活躍。1996年に大阪市に招かれ、大阪市立美術館館長。2004年から金沢21世紀美術館の初代館長を兼任。開館以来毎年150万人を超える集客を継続させ、世界中から高い評価を集める。現在はサザビーズ北米本社副会長として、アジアの現代アートと世界中のコレクターの橋渡し役として活躍。

MEET OSAKA Vol.29発行



アートの季節の11月～来年2月までの伝統芸能公演&展覧会を中心にした情報満載の「MEET OSAKA」Vol.29を刊行、近畿一円の空港、主要駅、ホテル、ツーリスト・インフォメーションで無料配布中です。巻頭特集は、文楽人形の首(かしら)をとりあげ、主役・準主役級に使われる主な首を写真つきで解説。細やかな動きと相まって表情豊かに登場人物を演じる人形は、文楽に欠かせない重要なアイテムです。首の種類や特色を知れば、鑑賞の楽しみも増すことでしょう。ちなみに大阪・日本橋の国立文楽劇場では、開場25周年記念公演開催中。

関空ウエルカム映像、秋バージョン放映中!



もうおなじみになりましたでしょうか? 関西空港税関エリア内にて放映されている「ウエルカム映像」。四季折々のバージョンで今流れている秋の映像は、水都大阪2009会期中の大阪の橋のイルミネーションや、京都、奈良、神戸など関西の魅力満載です。大阪や関西のイメージを改善し高めるためには、百聞は一見にしかずで映像による働きかけが効果的です。海外から関西に到着する来訪者に関西の美しい風景や魅力を紹介していますが、今後はこの映像を“ご利用ご自由”つまり著作権フリーのライブラリーとして提供していく予定です。

「膜」を究めて約90年 世界市場でオンリーワンをめざす

仮設テントから恒久的建築物へ

1929(昭和4)年、空気で膨らませたチューブでテントを支える世界初のエアテントを開発した太陽工業株式会社(1922年創業/当時・能村テント商会)。その後、同社は創業者能村金茂氏の長男龍太郎氏によって、船舶用シートや運送、倉庫などへと幕(重布)の販路を拡大していく。ダイハツの軽三輪トラック『ミゼット(1957年)』の運転台幌も同社製であった。

そうした同社製品が、建築資材として広く認知されるきっかけとなったのが、大阪万博(1970年)。エアテントの原理を応用した世界初の巨大空気支持膜構造の『アメリカ館』に採用され、膜構造建築が世界的に注目されたのである。とりわけ野球の本場アメリカでは、ドーム型球場の建設に数多く採用され、その技術を逆輸入して東京ドーム(1987年)ができた。こうして同社は、博覧会やイベントでの仮設テントから、競技場や空港、駅舎などの恒久的な膜構造建築へと市場を一気に拡大していった。また、粉粒体物を繰り返し梱包・輸送できるコンテナバッグや、廃棄物最終処分場に埋設される遮水シート、海面の汚染を防止する汚濁防止膜など、環境保全分野でも数多く製品を供給している。

多彩な技術で環境改善に貢献

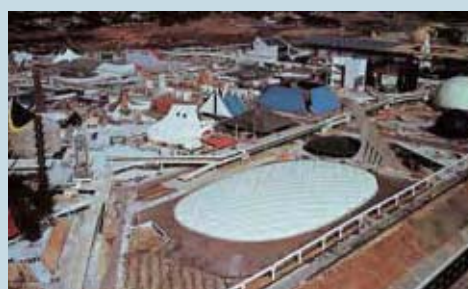
1992(平成4)年に能村光太郎氏が社長に就任すると、太陽工業は世界市場への進出を加速。欧米、中近東、インド、アジア、オセアニアなど海外12箇所に現地法人を置き、F1サーキット会場やワールドカップサッカースタジアム、オリンピック施設などの大規模な膜構造物で実績を上げる。現在、同社は国内85%、海外60%の世界トップシェアを持つ。

「シェアアップは従業員の誇りとなり、やる気につながります。しかし大切なのは、ナンバーワンよりオンリーワン。当社独自の膜素材を用いた構造物を、世界中に展開させるのが目標です(能村氏)」

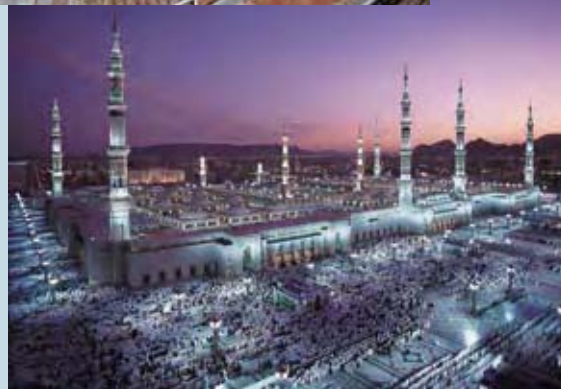
膜構造物の材料となる『重布』は、鉄やコンクリートと異なり、製造時にCO₂をほとんど排出しない。また、軽量なので建築物全体の重量が軽減され、基礎や柱もサイズダウンできる。さらに膜が太陽光を通すため照明が節約できるなど、環境改善に貢献する点でも注目されている。同社ではこうした材料特性に加え、太陽光と雨によって膜面の美しさを自ら保つ『光触媒膜』や、日中の光を蓄えて夜間や暗所で発光する『蓄光膜』など、さまざまな新技術を開発・実用化。脱フロンとして開発された低温輸送容器は、発展途上国へのワクチン輸送にとJCV(世界の子どもにワクチンを日本委員会)に10



太陽工業株式会社社長 能村光太郎氏



大阪万博
「アメリカ館」
(1970年)



大型アンブレラが設置される聖地メディーナの広場(2010年完成予定)

台を寄贈し、コレラの生ワクチンやサソリの抗毒血清などの保管や輸送にも使用されている。

現在、同社は、2010年に開催される上海万博をはじめ、イスラム教の聖地メディーナ(サウジアラビア)の広場に、巡礼者を強い日射しから守る大型アンブレラ250基を設置する同国の国家プロジェクトにも参画している。とくに上海万博の日本館には、屋根膜と透明のソーラーパネルを組み合わせて発電機能を備える新技術が導入されている。

2010年、同社から、新たな大阪のものづくり技術が世界に発信される。

太陽工業株式会社

本社:大阪市淀川区木川東4-8-4 <http://www.taiyokogyo.co.jp/>

文化を育てて半世紀 『大阪文化祭賞』への期待と課題



おいた ゆうこ
老田 裕子
(ソプラノ／奨励賞)



とよたけ さきほだゆう
豊竹咲甫大夫
(文楽大夫／奨励賞)



いわもと えり
岩本 恵理
(ピアノ／奨励賞)



のさわ いちろう
野澤喜一郎
(文楽三味線／奨励賞)



きくち まどか
菊池 まどか
(浪曲／奨励賞)



やまむら わか
山村 若
(邦舞／大阪文化祭賞)



はやし ゆたか
林 裕
(チェロ／大阪文化祭賞グランプリ)



大阪文化祭賞贈呈式にて
(前列:受賞者、後列:主催者および審査員代表・9月2日／大阪府公館)
※豊竹咲甫大夫氏と野澤喜一郎氏は公演中のため欠席

今年度受賞者が決定

1963(昭和38)年に創設され、今年で第46回となる大阪文化祭賞(大阪府・大阪市・大阪21世紀協会主催)の贈呈式が、9月2日、大阪府公館で行われた。

今年は参加65公演のなかから、チェリストの林裕氏が大阪文化祭賞グランプリを受賞。「10年に1人の逸材。チェロという楽器の特徴を十分に把握した感動的な演奏」と、審査員たちの賞賛を集めた。その他、伝統芸能や洋楽分野から若手・中堅の6名が大阪文化祭賞や奨励賞を受賞。「受賞は私ひとりのものではなく、大阪で生まれ育った山村流に対する評価でもある(山村若氏／邦舞)」「これを励みに大阪の浪曲を全国に広めていきたい(菊池まどか氏／浪曲)」など、受賞者の多くが、大阪で生まれ、あるいは育った文化を広く発信できる喜びを語った。

文化興隆のトリガーとして

大阪文化祭賞は、大阪における芸術文化活動の奨励と普及を目的としたもの。5～6月の2か月間に大阪府内で行われた公演を対象に大阪文化祭を開催し、『伝統芸能・邦舞・邦楽』『現代演劇・大衆芸能』『洋舞・洋楽』の3部門で、優れた成果を上げた個人や団体に賞を贈呈している。第1回の受賞者はオペラ歌手の五十嵐喜芳氏。以後、坂本スミ子氏、桂小文枝氏、春野百合子氏、茂山千作(先代)氏、渡辺貞夫氏など、多彩な分野で日本を代表するアーティストたちが受賞してきた。

「誉めることはとても大事。受賞者には大きな励みになり、多くの人々には芸術に興味や関心をもつきっかけになる。そうして劇

場に足を運ぶ人が増えると演者もさらに努力して公演が盛り上がり、大阪全体の文化力を高揚させていく。大阪文化祭賞は、そうした好循環を生むトリガー(起爆剤)になる」と、大阪21世紀協会・堀井良殷理事長は期待する。

しかし近年は、参加公演数の減少や大阪文化祭賞に対する一般の認知度の低さなどから、そのトリガーとしての効力が存分に果たしきれない状況にある。

アピールする機会を増やす

大阪文化祭への参加公演数が減った一つの原因は、07年度から開催時期を秋(10～11月)から春に変えたことにもある。秋の文化庁芸術祭の時期と外すことで参加団体がホールを確保しやすくし、また、大阪文化祭の独自性を高めたいとの思いからである。しかし、近年は大衆芸能分野の参加公演の減少もあって、05年度に155件あった参加公演が07年は87件に減少。以来、「秋開催だと文化庁芸術祭の方に注目が集まり、春だと参加公演が減る痛し痒しの状況(堀井氏)」が続いている。

これについて堀井氏は、「受賞者の記念公演を開催するなど、アピールする機会を増やすことで大阪文化祭賞の存在感や重みを高め、人々の関心を高めることがきわめて重要」と強調する。

数々の優れたアーティストを輩出してきた大阪文化祭賞は今、開催時期の再検討や公演機会の提供、メディアを通じた知名度アップなど、新たな課題に直面している。

※写真は今年度の受賞者

『水都大阪2009』最終日 新たな水辺の賑わいに多数の市民

「川と生きる都市・大阪」をテーマに、52日間にわたって開催された『水都大阪2009』。その最終日の10月12日、大川・八軒家浜会場では、大阪21世紀協会主催イベントが多くの市民で賑わいました。

「川とともに生きる都市・大阪」をアピール

OSAKA水上音楽パレード2009

大阪市内の河川を航行するあらゆる種類の船舶が、大川・八軒家浜界隈でパレードを繰り広げました。四条畷学園高等部および大阪市立扇町総合高校吹奏楽部が乗船する4隻を先頭に、軽快なメロディーに乗って34隻の船が続ぎ、多くの市民が見守るなか「水の都・大阪」を大いにアピールしました。また、その後、両校吹奏楽部を乗せた一部の船が道頓堀まで進み、大川同様の演奏を披露しました。



大川(八軒家浜棧橋)

新たな水辺活用で文化の夢ふくらむ

新作能「水の輪」

大阪の能楽師・山本章弘氏と現代美術家・井上信太氏とのコラボレーションによる新作能が、八軒家浜棧橋に接岸された「ひまわり」の船上に設けられた舞台上で披露されました。淀川を舞台に淀川の浄化を訴える物語で、一般募集した約20名の子どもたちも参加。子どもたちは事前のワークショップで制作した衣装や天冠で水鳥に扮装し、650年の伝統をもつ能に大阪弁で登場しました。夕暮れの八軒家浜棧橋付近は約3000人の見物客で埋め尽くされ、水辺を活用した新たな文化活動の夢をふくらませました。



前シテ(樟サス女)・後シテ(水神)山本章弘氏、
アイ(水鳥)小笠原匡氏他

スポーツを通じた交流で“包み込む社会”の促進を!

2010年 第5回スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・大阪 開催!

<2010年11月5日(開会式)、6~7日(競技)>

知的発達障がいのある人たちに年間を通じてスポーツ活動の機会と競技の場を提供し、自立と社会参加を応援する国際的なスポーツ組織・スペシャルオリンピック(本部・米国ワシントンD.C.)。1962年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー婦人が、自宅の庭を知的発達障がい者に開放したデイ・キャンプが始まりで、彼女の姉・ローズマリーも知的発達障がい者でした。その後、全米で組織化され世界へ拡大。88年には、国際オリンピック委員会と「オリンピック」の名称使用や相互の活動を認め合う議定書が交わされています。現在、175の国や地域が加盟し、約310万人のアスリートと75万人のボランティアが活動に参加しています。

日本への導入は1980年。94年には国内本部「スペシャルオリンピックス日本(SON)」が発足し、2001年には特定非営利活動(NPO)法人の認証を受けています。現在、有森裕子氏(本誌表紙)が理事長を務め、全国各地でスペシャルオリンピックスの認知を高める活動を行うとともに、大阪での全国大会開催に向け広く支援を呼びかけています。

大阪大会は「なにわに集え 挑戦者! 夢と勇気をもって! ~自分へ、チャレンジ。明日へ、チャレンジ~」をスローガンに、アスリート1000人が舞洲アリーナなど府内各所で、水泳、体操、陸上、サッカー、バレーボールなど12競技に挑戦。2011年6月にギリシャ・アテネで開催される『2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ』の国内選考もかねて開催されます。また、今大会はすべてボランティアによって運営されるため、SONでは資金調達も含め多くの人の支援を呼びかけています(問合せ: ☎06-6444-3550・FAX06-6444-3552 / 「2010年 第5回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪」実行委員会)。

表紙の顔
有森裕子氏



SONへの支援を呼びかける有森裕子氏
(2009年10月11日/御堂筋kappoにて)

『上海万博』カウントダウンまで半年！ 進化し続けるダイナミズム大都市・上海

再世界が注目した北京五輪から1年余。中国は、北京から上海に大舞台を移し、来春開催予定の「2010年上海万博」(5月1日～10月31日)へむけ、会場工事や周辺整備を急ピッチに進めている。「上海は、年内はいたるところで工事中」という関係者の言葉通り、万博お出迎え体制づくりに余念がない。一足先に万博会場現場で、完成間際の中国館や工事中の日本館の進捗状況を見てきた。進化し続けるレトロとモダンのコラボ大都市・上海。テレビ塔、森ビル、豫園、新天地、新旧観光名所もエキサイティングだ。

再び、世界が中国に注目する。

万博史上、はじめてづくしが満載といわれる上海万博。過去最大規模(参加200カ国・機関以上)、途上国初開催など、話題に事欠かない。来春5月1日開幕、国家挙げての一大イベントへ向け、急ピッチでパビリオン建設が進んでいる。開催期間中は、内外から7000万人の入場者を予想(うち5パーセントの350万人を海外から、そのうち80万人強を日本人観光客と見込んでいる)、都市建設もこれまでにないほどのスピードで整備中だ。世界各国を迎えるために上海の玄関口・上海空港からリニアが走り、都心へのアクセスはぐぐぐんと便利になった。今回、リニア初体験で、浦東市内へ移動。リニアモーターカーがどんどん加速してゆく。表示が瞬間最高速度430キロに! 15分で到着だ。

東洋のバリといわれた外灘(バンド)、租界時代の石造りのビルが建ち並ぶエリアは、工事中で歩けず、オールドジャズの和平飯店も工事中。おあずけを喰らった気分だが、来春、万博開催までに、バージョンアップで化粧直し。先ほどギネスに申請された世界一高い展望台の商業ビル「上海環球金融中心展望台」、通称森ビル(492m)から万博会場の位置確認。1995年に東方明珠タワー(テレ

ビ塔・468m)が建った年、上海にきた時は、バンドから黄浦江をはさんでのエリアは、テレビ塔がそびえるだけだった。今は高層ビルのラッシュ。

「あの方向が、万博会場です」。案内人の指さきに、小さく見える赤い屋根が、中国館。そばに万博演芸センターのドーム。黄浦江沿いに川を挟んで8.3km、5.28平方kmの広大な会場だ。

現地に行く前に、上海万博展示センターにいき、会場の縮小模型や基本概況を聞く。学生ボランティアの孫琳さん(22)は、「大学を卒業した年に、世界各国の方々と万博でコミュニケーションがとれることを誇りに思います」。自然体の若い世代が中国を変えていく。一般市民や中国各地からの観光客も熱心に説明を聞いている。市内いたるところに、上海万博のマスコット「海宝」(ハイボー)クン。記念撮影をする人たちの行列。

工事中の会場では、いつれのパビリオンもまだ、全貌を現さない(※9月取材時)。日本館も骨組み工事中。この骨組みに、丸い大屋根(巨大テント風素材)が覆われ、「紫蚕島」(総工費130億円)と呼ばれる“生命体(p9参照)のように呼吸する”ドームが完成する。

日本は、日本館のほかに産業館、そして大阪館も出展される。大阪館は、壁面を飾るアーティストを公募中だ。

工事中の会場で、ひときわ存在感を放っているのが中国の伝統色「故宮赤(朱色)」の中国館だ。「東方の冠」をテーマに、中国古代の木造建築の要素が外観に現れている。「開催中は、整理券を配り、入場制限となるでしょう」(万博事務局 張 俊さん)

年末あたりから、そろり、そろりと順次にベールを脱ぎ、全貌をみせてくれるだろう万博会場。説明を聞いたたびに期待がひろがる。やっぱり、ヘルメットなしで、来年は会場に来たいものだ。(取材・撮影 高橋 英子)



上海万博の玄関口、上海空港でマスコットの「海宝(ハイボー)」クンがお出迎え



外観の全貌が。中国館



骨組み工事中の日本館



上海万博展示センター会場模型、ワイドスクリーンなどで万博の歴史がわかる

メモ

上海
中国人口13億2129万人。陸地面積960万平方km。中国は、14カ国と隣接し、8カ国と海を隔てて向かい合っている。中国総面積の0.06%、6340平方km。総人口の1%(常住人口1800万人)を占めるのが上海。中国最大の経済中心都市でありながら、重要な海港都市。

上海万博

世界200カ国と国際組織(9月現在239の国・国際機関が参加)の参加を招き、7000万人の来場者(1日当たり平均約40万人、ピーク時78万人、国際博覧会史上最大)を予想。主会場は、南浦大橋と盧浦大橋間の濱江地区に黄浦江に沿って設置。総面積は5.28平方km(愛・地球博の約2倍)。有料参観エリア(入場券が必要なエリア)は約3.28平方km。期間は2010年5月1日～10月31日までの184日間。テーマは「よりよい都市、より生活」。環境の取り組み(太陽エネルギー、エコカー、LED照明、ゴミ収集システム)も特徴。日本館の面積はアメリカ、イギリスと同規模の6000平方m。上海万博組織委員会の主任委員は王 岐山・中国副首相。

取材協力・問い合わせ/中国国家観光局 大阪駐在事務所

TEL: 06-6635-3280 FAX: 06-6635-3281

世界一高い展望台(森ビル)からダイナミック上海を俯瞰する。スカイウォーク100階へは、大人150元。ランドマークのテレビ塔もみえる

後援・協賛イベント

第43回雅楽公演

四天王寺に古来より伝わる「天王寺舞楽」を、宗教儀式的枠を超えた浪花に残る最古の古典芸能として広く一般に紹介する目的で、1966(昭和41)年以来毎年開催。第1部・管絃、第2部・舞楽。◆12月1日(火)17:30開場、18:30開演／梅田芸術劇場メインホール／一般4,000円、学生2,000円／問合せ:天王寺楽所雅亮会 ☎06-6713-0048、FAX06-6713-8011



舞楽・打毬楽(たぎゅうらく)

(社)全大阪みんよう協会 創立25周年記念大会

本協会創立25周年の歳月を経て、日本民謡の文化芸術の向上進展に培ってきた集大成を披露。次世代への継承の弾みとします。◆12月6日(日)／大阪国際交流センター大ホール／問合せ:(社)全大阪みんよう協会 ☎FAX06-6757-7051



プラレール博 in OSAKA

プラレールの楽しさいっぱい新発見!

プラレールファン待望の、年に一度の大イベント。展示コーナー、巨大ジオラマコーナー、アトラクションコーナー、物販コーナーなどの体験型イベントで、親子の豊かなコミュニケーションを創造。◆平成22年1月1日(金・祝)～4日(月)、1月9日(土)～11日(月・祝)10:00～16:30(最終入場16:00)／ATCホール(アジア太平洋トレードセンター内)／中学生以上800円、小学生以下600円(当日券)、2歳以下無料※前売り各100円引／問合せ:ATC(アジア太平洋トレードセンター) ☎06-6615-5006、FAX06-6615-5021

第35回雅風展

掌上の芸術といわれる小品盆栽を通じて四季折々の情景を実感しつつ、心を癒す大切さと緑の潤いのある暮らしの良さを提案。◆平成22年1月3日(日)～6日(水)9:30～16:30(6日は15:00まで)／京都市勧業館「みやこめっせ」／800円／問合せ:全日本小品盆栽協会 ☎FAX046-269-9891



OSK日本歌劇団ミュージカル 「YUKIMURA～我が心 炎の如く～」

「ミュージカル真田幸村～夢燃ゆる～」をロングバージョンでリニューアル。大阪夏の陣で大軍徳川をあとう歩まで追い詰めた真田軍。負けることを恐れず大きなものに立ち向かう幸村を、OSKトップスター桜花昇ぼるが熱演。◆平成22年1月22日(金)～24日(日)・開演22日19:00、23日・24日13:00、18:00／サンケイホールブリーゼ／S席7,000円、A席5,000円、B席3,000円／問合せ:OSK日本歌劇団 ☎06-6362-8838、FAX06-6362-8839



桜花 昇ぼる

第18回 2010高槻シティ国際ハーフマラソン

「心ふれあう水とみどりの生活・文化都市」高槻市を全国にアピールするとともに、生涯スポーツ社会づくりの一環として開催。◆平成22年1月24日(日)9:30～13:00／高槻市立陸上競技場(スタート&ゴール)／事前申込み要:申込期間2009年12月7日まで先着順／参加費(種目により)1,000円～3,500円／問合せ:2010高槻シティ国際ハーフマラソン実行委員会事務局 ☎072-673-0159、FAX072-673-7140

2010大阪国際女子マラソン大会 2010大阪ハーフマラソン

2010大阪国際女子マラソン大会は、第16回アジア競技会(2010広州)代表選手選考競技会を兼ねて開催。◆平成22年1月31日(日)11:10～16:00／長居陸上競技場～森ノ宮～天満橋～北浜～大阪市役所～御堂筋・新橋折り返し～淀屋橋～天満橋～大阪城公園～森ノ宮～長居陸上競技場(42.195km)／※2010大阪ハーフマラソンの申込みは締切りました。

第17回大阪アウトドアフェスティバル2010

日本最大級のアウトドア・レジャー総合展示会。各種アウトドア用品やキャンピングカー、モーターバイクなどを展示。自然と生きるライフスタイルを提案。◆平成22年3月6日(土)～7日(日)10:00～17:00／インテックス大阪／大人1,200円・小学生600円／問合せ:テレビ大阪 ☎06-6947-1912、FAX06-6947-1941



第56回各派各流三曲定期演奏会

大阪三曲協会会員団体による箏、三絃、尺八の演奏。三曲音楽、とくに古典音楽の普及発展を通して若手の育成と情操向上、鑑賞者の拡大をめざす。◆平成22年3月28日(日)11:00～17:00／国立文楽劇場大ホール／2,000円／問合せ:大阪三曲協会 ☎06-6245-0366、FAX06-6245-0518



公演風景

※ここに掲載する以外にも、大阪21世紀協会は多数のイベントなどを後援しています。

大阪21世紀協会賛助会員へ入会のお願い

大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何れでも結構です)

- 法人会員一口につき年会費10万円
- 個人会員一口につき年会費1万円

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (財)大阪21世紀協会 総務グループ TEL.06-6942-2001



能は丁々発止の熱いライブ

幽玄の舞台上とは違って変わって、素顔の山本章弘さんはユーモアたっぷり。能の楽しさがダイレクトに伝わってきて、「この人が演じる能を見てみたい」と思わせる魅力にあふれている。

生でしか伝わらない

先日、テレビ局の人にお願いたんでですけど、「舞台を撮影する時は横から撮ったりアップにしたり、カット割りせんとしてください。全体を一台のカメラで撮ってください。映っていない役者も何らかの表現をしていますし、舞台全体で作品の世界を作っているんですよ。細切れにしたら分からんようになってしまうんです。

能舞台って見所(観客席)に突き出っていて、長い廊下もある。そやのに照明はあかりは一つだけ。だから前は明るいけど、後ろはほの暗い。でもスポットライトなんかで照らしたりはしません。お客さんに「隅の暗い所に亡霊がいるみたいや」とって錯覚を楽しんでもらうためです。これは生じゃないと感じてもらえない味わいですね。

自然の情緒と渾然一体

屋外の能舞台では、風の音や虫の声なんか聞こえてきます。他の芸能はこういった自然の要素を排除しますが、能は融合させてしまふ。かえって効果的な演出にもなっています。朝の光に神仏の来迎する様を舞ったり、夕闇に鬼畜

物を演じたり。

とは言っても昨今はよっぽど山奥でないと、飛行機や車の音が聞こえたりして、せっかくの雰囲気がない無しになることもあります。

同じ曲でも毎回違う

邦楽には絶対音感がありません。楽譜通りにきちっとするクラシックと違って、相対音感で決まっています。謡いや音、調子は人によっても変わるし、その日の心境によっても影響が出てきます。観客が多いとウキウキ、少ないとゲンナリとか(笑)。

出演者全員で何日か前に打合せもしますが、これは「申し合わせ」であって、絶対ではないんです。早い調子でやろうと決めていても、舞台上に出たらえらいゆっくりしたお囃子になっていることもありま。そんな時はアップテンポで足拍



子を踏んで催促したり(笑)。

また当日の音合わせもないので、どんな音が奏でられるのか開演しないとわかりません。直前に「お調べ」というのはあるのですが、これはほんの音出し程度。というのは、鼓は早くから組み立てて打っていると調緒(ひも)が緩んでしまふし、太鼓は火鉢ですと皮をぬくめておかないと湿気がこもってしまいますから。

本番では「ボンツ」と打ってほしい鼓が「ボスツ」、「ヒョー」という笛の音が「スー」としか鳴らないこともありますけど(笑)。それでもやっけていくのが能のだいご味。一方、演者は加齢で足が上がりなくなるとそれを補う別の工夫をしていたり。という変化もあります。また解釈が変われば表現も変わりますし。同じ曲でも一つとして同じ内容ではない、再演できない究極のライブなんです。



空想力を養う

「子ども教室」、「少年少女羽衣うたい隊」「新作水の輪」など、子どもたちに能に親しんでもらう企画をいろいろやっています。

子どもに龍神の絵を描かせたら、次から次にいろんな顔かたちの龍神が出てくるんですよ。固定概念がないから。ポケモンやドラえもんやったら一様ですけど、空想上の存在は決まった姿がないから、百人の子がいれば百の姿が描かれるんです。

天狗を描かせた時、子どもたちが「天狗って何？」と聞くので「偉ぶってテングになっている人」と説明したら、納得していました。天狗は知らなくても、テングになつて人はわかつたんですね。

「子ども教室」風景



誌上 舞台 能

およそ650年の歴史を持つ音楽・仮面劇。現代まで途絶えることなく上演されており、世界無形文化遺産に指定されている。「シテ方」「ワキ方」「狂言方」による舞と謡、「囃子方」（笛方、小鼓方、大鼓方、太鼓方）による演奏で構成される。

能楽師



山本章弘（やまもとあきひろ）

観世流シテ方。3歳で初舞台。幼少より父の故・山本眞義に師事。昭和58年、故二十五世観世宗家・観世左近に入門し、同63年に独立。主宰する山本能楽堂で文楽・落語・講談とのコラボを行うなど、能楽フアンの裾野を広げている。大阪文化祭奨励賞、なにわ大賞大阪21世紀協会賞、バナニック教育財団奨励賞などを受賞。

これは世阿弥が『大和物語』中の話を改作した「現在能」で、能には珍しいハッピーエンドです。現在能とは、亡霊や神仙などが主役の「夢幻能」に対して、生きていた人間のみで展開する曲のことで、面を被らない「直面」で演じます。

主人公は妻と別れた後、落ちぶれて芦売りをしている日下（草香）の里の左衛門。日下は、東大阪市日下町ではないかと言われています。ここは神武天皇が東征の際に最初に上陸した地とされており、昔は海辺でした。

妻一行が舟で淀川を下る道中で謡われる大江の岸は八軒家浜、夫婦が再会する難波の浦は上町あたりでしょうか。かつての大阪は「八十島」と古称されたほど川や海が入りこんでいた土地で、そこかしこに水辺があつて芦が生い茂っていました。

そんな寂しい水辺で芦を売るのは、生きるために堪え忍んでのことでしょうか？ いいえ、割り切つてやってるんです。買ってもらうために、面白い口上まで述べて堂々としています。この場面では、見物人に「芦と葦は同じか」と問われて、「ススキと尾花のようなもの」と得意即妙に答えるなど、教養人であることも示唆しています。

こんな達観した男でも、相手の貴婦人が妻だと知った瞬間、羞恥心を感じて逃げ出してしま

零落した夫と栄達した妻の邂逅

芦刈

案内人 山本章弘



う。以前は作り物の小屋に身を隠していたのですが、現在の観世流では橋掛かり（左奥の廊下）へ退く動作でそれを表現しています。

小屋の戸口に立っている妻に対して左衛門は、「芦」と「悪し」を掛けた和歌を詠んで詫言います。「君なくて芦刈りけりと思うにもいとど難波の浦は住み憂き」

妻は恨んではないかと返歌します。「悪しからじ善からんとぞ別れにし なにか難

波の浦は住み憂き」

この場面では、つい芝居がかつて感情の高ぶりが顔に出そうになります。これは能ではNG。自分に陶醉してはだめなんです。カラオケで熱唱しているオヤジを暑苦しく思うのと同じです（笑）。

舞台も演技も、なぜこんなに簡素で抑制的なのかというと、観客に自由に想像してもらうため。見えない世界を見せる究極の仕掛けなんです。難しく考えないで、想像力を遊ばせるつもりで、能楽堂へお越しください。十人十色の心象風景が広がるはずですよ。

物語のあらすじ

能「芦刈」

日下の里の左衛門は貧しさゆえに妻を離縁し、妻は京へ上ります。物語は貴人の乳母となり栄達した妻が、従者を伴って里帰りするところから始まります。しかし妻一行が日下を訪ねると、左衛門は行方知れずになっています。悲嘆に暮れる妻に従者は気晴らしに難波の浦へ行くよう勧めます。浜には面白おかしく芦を売る男がいました。妻は興を感じて芦を所望します。男が手渡そうとした時、顔を見た妻はびっくり。男は左衛門だったのです。とっさに芦小屋に隠れた左衛門は妻への思いを和歌にして詠みます。妻は夫を今も慕っていると返歌します。互いの気持ちを確かめ合った二人は、仲良く京へ上つていくのでした。

●山本能楽堂

「谷町4丁目」下車、徒歩2分。
大阪市中央区徳井町1-3-6
☎06-6943-9454
<http://www.noh-theater.com>
<http://blog.nohperformer.com>

